

会 議 録

会議名	平成12年度第2回宇都宮市廃棄物減量等推進審議会	
開催日時	平成13年1月18日(木)午後1時30分から3時20分	
開催場所	宇都宮市役所本庁舎 14A会議室	
出席者	【委員】小野里豊、福田久美子、藤枝実、藤野修逸、神宮由美子、廣田宏子、湯澤博、葭葉リウ、伊藤宣秋、児玉博利、小林勝義、増子三男、手塚修、川本由江、田中広 【事務局】榎淵宇都宮市環境部長、他15名	
公開・非公開	公開	
傍聴者数	なし	
議題	1、宇都宮市ごみ処理基本計画の改定について 2、その他	
会議結果	議題1	「減量化・資源化計画」については、原案に今回の意見を反映させる。その上で次回、ごみ処理基本計画全体として審議
	議題2	第3回(最終回)は、平成13年2月27日(火)午後3時から、市役所14A会議室において開催

発言要旨【議題1関係】	
藤枝委員 (意見)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 散乱空缶対策としてデポジットは効果があるので、市或いは広域的に取組んではどうか。 ・ 食品リサイクル法の施行に合わせて、生ごみの資源化に取り組むべきである。 ・ 減量化・資源化の推進には、各種事業を積み上げるばかりでなく、戦略的に意識改革に取り組むべきである。
神宮委員 (意見)	<ul style="list-style-type: none"> ・ デポジットについて、「空缶がお金に替わる制度は子どもの教育上如何か」の理由で進まなかった例がある。これは、問題のすり替えであると思うので、導入を検討する際には、注意してほしい。
葭葉委員 (意見)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 所属団体で、各種の活動を通してごみ減量化を訴えてきたが、どうも効果があがらない。これは、「出せばタダで取ってくれる」ことが原因のひとつだと思う。教育することも大切だが、きちんとやらない人をやらせるための施策が必要である。(会長の見解は?)
会長 (意見)	<ul style="list-style-type: none"> ・ そういう意味では、有料化も今後考えていかなければならないだろう。
小林委員 (意見)	<ul style="list-style-type: none"> ・ オフィス古紙の量は多く、企業のISO取得に絡んで色々な工夫が考えられるので、原案の開始予測時期よりもっと早くやれると思う。
福田委員 (意見)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 減量化率の数値目標は、やはり国の水準に合わせるべきではないか。 ・ 発生抑制が最も重要であり、そのための意識啓発にはもっと経費をかけて取組んでいくべきである。 ・ びん缶と一緒に収集し処理施設で選別しているが、排出時から分けてもらってはどうか。

田中委員 (意見)	<ul style="list-style-type: none"> 発生抑制と減量化をきちんと区別している点は評価する。市処理量の減量化ばかりでなく、環境負荷等の観点から発生抑制を最重要施策とする姿勢を貫き通して欲しい。 印刷物や催事による啓発には限界がある。行政と市民が一緒になって考える、行動する方向にもっていくべきである。 拡大生産者責任の強化には、国への働きかけが一番重要である。また一方では、レジ袋課税等地域での方法を積極的に検討していくべきである。 ごみ処理方法は自治体により様々である。最善の方法を議論することも必要だが、最終的には、自治体が決めた処理方法に基づくルールを、住民にきちんと守るよう求めていく努力が大切である。
会長 (意見)	<ul style="list-style-type: none"> 教育、処理方法の理解の観点からも、子どもたちに市の施設を積極的に見てもらうことが必要だろう。
児玉 (意見)	<ul style="list-style-type: none"> 多くの市民は、ごみ減量の必要性は分かっているが、行動に結びついていないようだ。やると得・やらないと損になる施策も必要である。 ごみ処理無料による不公平を是正する意味でも、排出者責任の明確化・強化が必要である。
神宮委員 (意見)	<ul style="list-style-type: none"> 5種9分別はいわば「家庭のISO」だと思う。緩やかな基準でもいいので、「学校のISO」をやってみてはどうか。教育効果は勿論、家庭への波及効果もあるだろう。 レジ袋の問題等事業者の取り組みは、一つの店或いはある地域だけでは他とのサービスの差からなかなか出来ないようだ。事業者どうしの連携の強化をお願いしたい。また、そのための市の指導等もお願いしたい。
伊藤委員 (意見)	<ul style="list-style-type: none"> 所属の商店街では、レジ袋不用とする客に景品や割引をする運動を展開しているが、継続する中で、レジ袋も景品も割引もいらないという客がでてきた。意識が変わってくれたのだと思う。時々やる催事よりも、毎日の行動を通してのものの方が意識改革には重要である。 商店街としての取り組みには限界もあるので、行政の後押しを是非お願いしたい。
藤枝委員 (意見)	<ul style="list-style-type: none"> 現在、「環境」を大切にする施策に対して、世論が支持する状況にある。例えば、入札制度に、価格競争だけでなく、ISO取得の有無や環境面での自己改善などの選定基準を取り入れることも検討してはどうか。 市のISO14001の取得、神宮委員提案の「学校のISO」には大賛成である。
川本委員 (質問)	<ul style="list-style-type: none"> 集団回収協力業者への補助金増額、生ごみ資源化施設整備費用等に疑問がある。この計画案のまま実施されるのか？
清掃課長 (回答)	<ul style="list-style-type: none"> 減量化率、リサイクル率の将来予測のための条件として設定したものであり、個々の事業については、実施する際に精査し決定することとなる。
田中委員 (質問)	<ul style="list-style-type: none"> 学校の総合教育の中で講演を依頼されることが増えてきた。また、消費生活展に学校の授業として出展する計画もある。絶好の機会であるので、市もそういう場所に積極的に出ていくべきである。
発言要旨【議題2関係】	
湯澤委員 (要望)	<ul style="list-style-type: none"> ごみステーションの管理は自治会に負うところが大きい。一方でステーションの設置申請は自治会長以外の者も行えるようになってきているため、後になって管理運営面でトラブルが発生した事例がある。制度の改善をお願いしたい。
清掃課長 (回答)	<ul style="list-style-type: none"> 現在、自治会側と意見交換中である。その中で検討する。